

# 秋田藩家蔵文書に見る「天地人」の世界

# 古文書倶楽部

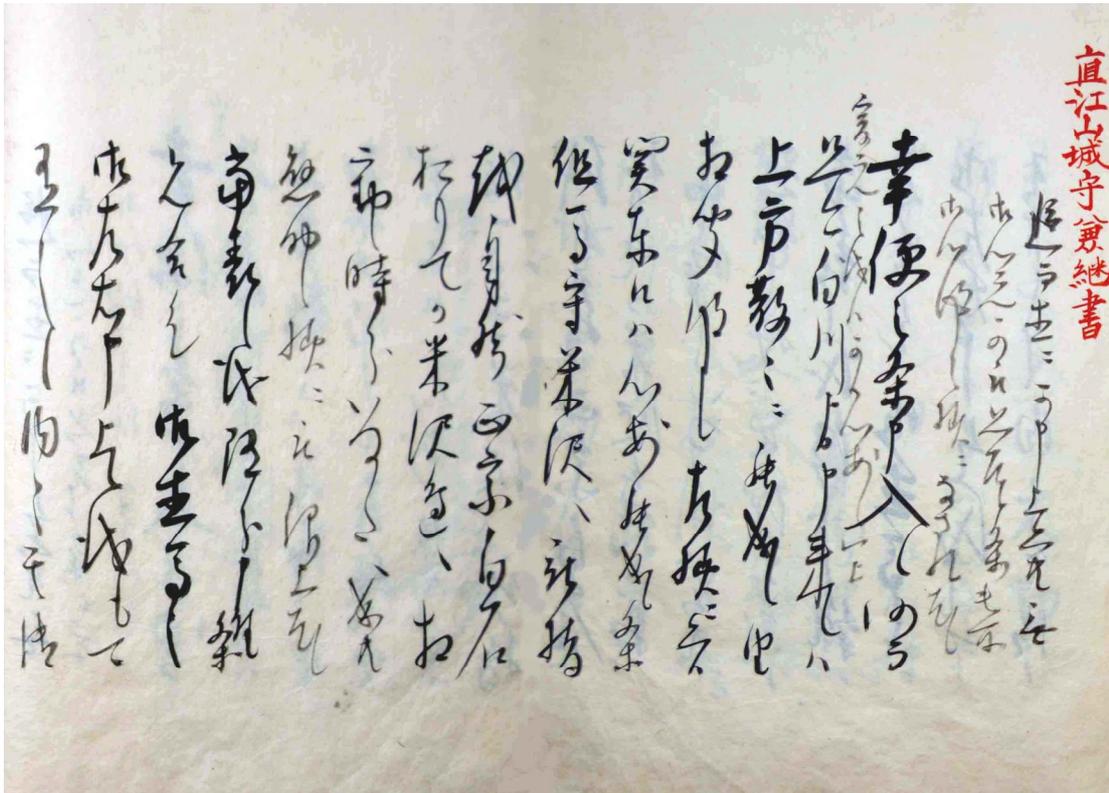
【発行】

秋田県公文書館

2009.5

第28号

秋田県公文書館には、戦国時代の書状を多く含む「秋田藩家蔵文書」があります。今号の「古文書倶楽部」では、「秋田藩家蔵文書」八(A280 69 8)にある直江兼統(大河ドラマ「天地人」の主人公)の書状を紹介いたします。



朱書

(直江山城守兼継書)

追て直二可申上候へ共、無

御心元可被思召候条、貴所

御心得之候様二なされ尤候。

爰元之儀八可御心安候。以上

幸便之条申入候。仍て

只今白川より申来候ハ、

上方散々二罷成候由

相聞得申候。左様二候へハ

関東口八心安罷成候条

但馬守米沢へ被指

越、自然正宗白石

おもてか米沢辺へ相

動候時分、いつかたへ成共

懸助候様二被仰上尤候。

当表之儀、随分申付候条

見合候て 御直馬之

御左右申上候儀も可

有之候。内々其御

語句

但馬守 大国実頼(兼統の弟)

正宗 伊達政宗

直馬の御左右 上杉景勝の供回り

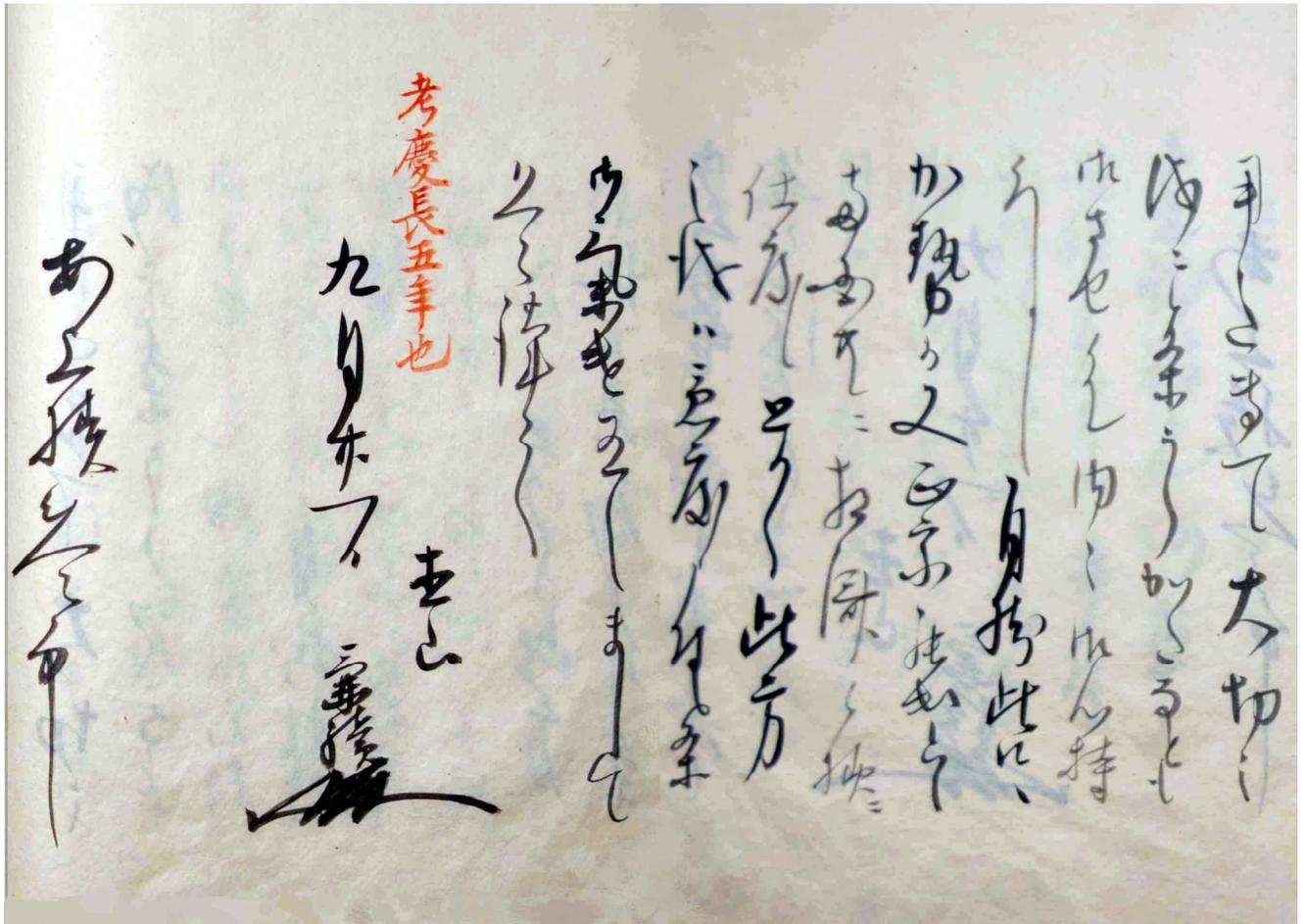
秋田藩家蔵文書とは

元禄九年(一六九六)藩主佐竹義処は、藩士が持つている系図や古文書の提出を命じます。藩士が提出した古文書は、城内に設置された文書所で写され、原本は藩士に返されました。この時文書所で写した資料は後年「秋田藩家蔵文書」と名付けられ、現在秋田県公文書館に六十一冊あります。

秋田藩家蔵文書には

藩士が持っていた古文書を写したものの、様々な史料があります。佐竹義重を始めとする北関東の武将や秋田氏や小野寺氏といった出羽の武将の書状、中には後醍醐天皇の論旨や豊臣秀吉の書状もあります。

この直江兼統の書状は、横手給人箭野新右衛門が持っていたものです。しかしこの書状の宛先は安上様とあります。なぜ安上宛の直江兼統の書状を箭野が持っていたのかは不明です。



用意専一候。大切之儀二候条、うらかたなとも御させ候て、内々御心持候へく候。自然此口へ加勢か又正宗罷出候八、両国共二相済候様二仕度候。とかく此方之儀八急度申付候条御氣遣有之ましく候。恐々謹言

朱書

(考慶長五年也) 直山

九月廿一日 兼統(花押)

安上様参 人々御中

語句

両国 陸奥と出羽

考慶長五年也 秋田藩庁の文書所

で判断した推定年

の朱書

安上様 上杉家家臣の安田上総介

能元

慶長五年九月十五日に:

関ヶ原の戦いが起こりました。話は徳川家康が会津の上杉景勝を征伐しようとするところから始まりません。家康が上方を離れたところで石田三成が拳兵。算段どおりに行けば家康は上杉と石田の挟み撃ちになるつもりでした。しかし家康はすかさず軍を上方に向け、関ヶ原で石田三成を破ります。一方、家康が来ないことを知った上杉景勝は、家臣の直江兼統に徳川方に属した最上義光を攻めさせます。この書状は直江兼統が最上領の長谷堂城(現山形市)を攻めている時に書いたものです。

この書状は:

文中の「上方散々」をどう捉えるかで、意味が大きく異なっています。すなわち戦後六日で関ヶ原の情報が伝わったと考えると、石田方の敗北を意味します。伝わっていないと考えると、関ヶ原の戦い以前に岐阜城が落城したことや大垣城で石田方が劣勢になっている様子ということになります。(畑中康博)

「秋田藩家蔵文書」にはこの他にも直江兼統の書状や上杉謙信、景勝の書状があります。閲覧室に複製本を置いてますので、お気軽にご覧ください。

また公文書館では、六月二十七日から講座「古文書入門コース」を、七月二十八日から講座「古文書解読コース」を開講します。「入門コース」では直江兼統の書状を解説する講座もあります。皆様ふるって御応募ください。詳しくは「公文書館講座のお知らせ」をご覧ください。